

植古幸樹？ 栓樹？

掛図で使われる独特な漢字名

開館10年記念企画展
子どもの学びを支えた掛図
7月1日(土)～10月25日(日)

ま
な
び
や



「栓樹」 奈良女子大所蔵 1909(明治42)年



「植古幸樹」 奈良女子大所蔵 1909(明治42)年

右の掛図は「植古幸樹」の図です。チヨコレートの原料としておなじみのカカオです。

が、実は明治時代「植古幸」は「チヨコレート」の当て字でした。カカオは「加加阿」「可阿」と書かれ、チヨコは一般的には「猪口令糖」「千代古令糖」と書かれていました。北原白秋の短歌集「桐の花」

には「植古幸、嗅ぎて君待つ雪の夜は、湯沸の湯気も、静ころなし」とあり、当時「植古幸」は飲み物でした。

この掛図の右隅の上部には「砂糖や牛乳を加えたカカオ湯はコーヒーと等しく美味」と書かれています。「カカオ湯」は「ココア」のことですが、ココアという名前が一般的に使われるのは大正時代になってからで、明治時代では今なら一杯二千円以上の超高級品でした。

この掛図の制作者はカカオにあえて「植古幸」という漢字を当てて書くことで「チヨコレート(植古幸)が採れる不思議な樹」として紹介したかったのかもしれない。

上の掛図は「栓樹」の図です。「キルク」はオランダ語の発音、英語では「コルク」のことです。ワインのコルク栓やコルクボードなど、今でも使われている木材ですが、植物の和名は「コルク櫟」、素材としては「木栓」というのが一般的でした。「栓樹」は学校の掛図だけに使われている当て字のようです。当時は外来語に漢字を当てるときに「ゴム」は「護謄」(保護す

る膜)、「パン」は「麵麴」(小麦のダンゴ)など、漢字の意味で形や用途、素材などを直感的に理解できるように工夫していました。コルク栓の実物やこの掛図を生徒に見せて、「瓶の栓に使われる木だから『栓の樹』！」わかりやすいですね。

学校で使われる掛図には、教室の生徒に伝えたい制作者の意図があります。掛図は当時の人々の生活や思いを知る貴重な資料です。企画展は10月25日まで展示物を一部入れ替えて開催しています。ぜひ来館してご覧ください。

次回展示 特別展

『つながる記憶のピース』

学校の昭和100年
10月31日(土)～3月22日(月)

10月31日から特別展『つながる記憶のピース』―学校の昭和100年―を開催します。今回は「授業」「学校行事」「健康」「文具」の4つのテーマで、昭和と令和の3つの時代の中で、変わっていった学校や子供達の生活の様子が伝わる様々な写真や実物資料をご紹介します。ご来館下さい。